

2003 年度 委員会活動成果報告

(年 月 日作成)

委員会名	住宅需要構造小委員会	主 査 名：木内 望
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築経済委員会	委員長名：嘉納成男
設 置 期 間	2003年 4月 ~ 2005年 3月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>本小委員会は、住まい手側の変化によって、住まいの立地、住戸形態、広さ、部屋構成、設備等への要求がどのように変化するかを明らかにし、それに応えられるストックはどのように存在し、どのような不足が生じるかの検討を行い、さらに、これらの変化のもとであるべき設計論、制度論について研究を進める。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>浅見泰司(東大)、伊藤史子(新潟大)、加納国雄(不動産研)、木内望(国交省国土技術政策総合研究所)、橋田洋子(リビング・デザインセンター)、志岐祐一(日東設計)、瀬川祥子(UFJ総研)、田中勝(山梨大)、生田目裕(東京都宅建業協会)、藤岡泰寛(横浜国大)、松本真澄(都立大)、吉川徹(都立大)、頼あゆみ(国交省国土交通政策研究所)、米野史健(国交省国土技術政策総合研究所)</p>	
設置 WG (WG名:目的)		
2003年度予算	70,000円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2003/4/24 7名 2003/12/5 9名 2004/1/30 5名
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>(財)家計経済研究所のパネルデータを利用して、小委員会の共同作業で「女性のライフスタイルと居住に関する分析」を2003年度に行うべく、検討を積み重ねてきた。しかしながら、ここに来て所属先の組織改変やCOEへの対応などに委員が忙殺されるようになり、当初に想定していた作業・分析を協力して行う日程・計画を調整することが不可能となってしまった。そこでやむを得ず、これについては、条件が整うまでの間当分延期することとした。</p> <p>またもう一つのテーマは、「住宅・住宅地設計とそこに意図された住み方提案の変遷」として取り組むこととなり、事例見学・調査を進めるとともに、住宅(地)開発史や社会・経済潮流に関わる様々な年表を集計するなどの作業にとりかかりつつある。</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>「女性のライフスタイルと居住に関する分析」の計画の検討は進んだが、実際の分析は条件が整うまでの間、当分延期することとなった。</p> <p>「住宅・住宅地設計とそこに意図された住み方提案の変遷」については、当初計画通り、事例見学を進めつつ諸作業にもとりかかりつつある。</p>
その他評価すべき事項	<p>建築産業・市場の将来像特別研究委員会建築市場小委員会の幹事・委員として、本小委員会から主査・委員の数名が参加し、検討・作業に参加している。</p>